

憲法「九条の会」アピールに賛同する 第5号 2008年4月発行

# 愛知・大学人ネットワークNews

(巻頭の言葉)

## 軍事国家への道

新美治一(名古屋経済大学教授)

新憲法制定議員同盟の新役員体制が、2008年3月4日、自民党・民主党・公明党・国民新党の国会議員、総勢191人によって決定されました。特徴は、中曽根元首相が会長、伊吹自民党幹事長及び鳩山民主党幹事長が顧問、その他両党の主要な議員が役職に名を連ねていることです。国民投票法が制定されたにもかかわらず、国会では未だ「憲法審査会」が未設置であり、この同盟の再編に、改憲推進派の意気込みと焦りを窺取ることができます。

日本国憲法第9条の価値が、「九条の会」の活動によって国民に浸透しつつあること、加えて世界各国でこの日本国憲法の理念の評価が高まりつつあることに、彼らは危機感を強めているのです。私たちにとってもいまが正念場です。

国民のあいだでは、日本の支配層が、憲法改正を先取りして、わが国を軍事国家・警察国家に変えようとしていることに対する警戒感が急速に拡がりつつあります。支配層の考え方が端的に現れたのは、イージス艦の漁船への衝突・破壊事件への政府の対応、鹿児島県志布志市の県会議員選挙での「12名に対する冤罪」事件に係わる警察庁及び県警の処理、豊後高田市の大石市会議員「選挙違反事件」の最高裁の上告破棄「判決」、沖縄での米兵による「少女強姦」事件及び頻発する彼らの刑事犯罪への政府の対処です。

政府・防衛庁・イージス艦の側には、「国を守る」艦船には民間の漁船などに対し絶対的優越的地位があるのだ、という考え方が露骨に見えます。イージス艦は、日本の支配層の論理である「専守防衛」に不要であるにもかかわらず、日米安保条約に基づきアメリカ軍の「用に供する」艦船であることによって、軍事の要諦の位置を占めています。その艦船が日米共同訓練を終えて帰国の途上にあるのだから、民間船は航路を譲るべきだ、という考え方は、イージス艦を避けることができなかつた漁船にあたかも非があるかのようです。

2つの公選法違反事件で、警察・検察・裁判所に共通して見られるのは、国民に保障されている「国民の公務員任免権」・「表現の自由の権利」・「裁判を受ける権利」などの民主

国家に欠くことのできない諸権利は、これらの機関には関係なく、権力機関が一旦判断したことは「正義であり、国民は従うべきだ」という考え方です。

軍隊は、「人間の生命と尊厳」を無視することによって初めて成り立つ組織です。遠い過去にさかのぼらなくても、イラクに軍を派遣し、かの地で地域の住民にたいする殺戮・拷問・婦女陵辱のみならず自らの軍隊内でも「女性兵士への強姦」が多発している米軍をみれば、このことは明らかです。その軍隊の軍事基地を沖縄に認めることによって、日本政府は、実質的に米軍の無法に加担していることとなります。沖縄の島民が当面軍事基地の縮小、将来的にはその撤去を求めているのは、当然でしょう。

国民一人ひとりの尊厳と命を守るのではなく、自民党・公明党・民主党・国民新党は、憲法を改正し、こうした国家主義的な方向をいっそう推進しようとしています。これらの諸政党の憲法改正案の名称はそれぞれ異なりますが、その考え方と内容はほとんど変わりません。個人の尊厳と自由を「脇におき」・蔑ろにし、国家の利益を正面に打出し、日米安保条約に基づきアメリカに犬馬の労をとることのできる軍事大国を構築することです。

「九条の会」をさらに大きくし、その活動をますます活性化させることが求められています。

(2008年3月15日、新美治一記)

# 『科学者九条の会』発足 3周年記念の集い」参加記

丹生 潔（名古屋大学名誉教授）

「九条の会」のアピールを広げる科学者・研究者の会発足3周年記念の集いが3月9日（日）に東京の日本大学歯学部の第一行動で行われ、その中で名古屋大学九条の会の活動報告を行ってきました。

文書での報告は、北の室蘭工大から西の大阪市大まで20大学・研究所と、「九条の会」愛知・大学人の会を含む7つの都道府県・地域の会とから出されておりました。参加者は約80名でした。

集いは12時30分に開始され、挨拶と経過報告の後、「核兵器廃絶と憲法九条」と題する澤田昭二名大名誉教授の講演を聴きました。

次に、口頭報告の最初に、5月上旬に幕張メッセで開催される「九条世界会議」の日本実行委員会共同代表の新倉修青山学院大学教授が「人類を戦争から解放するキイとしての九条をあらゆる角度から世界に明らかにしよう」とこの会議の意義を訴えました。その後、学生を含めた参加者からこの1年の活動報告やアピールが9件行われました。

最後に、九条科学者の会事務局からまとめと今年度活動方針の提起があり、「志を同じくする内外の運動と手を携えて、憲法改悪の執拗な策動を許さず、九条を宝とし、発展させる奔流を共に作りましょう」とのアピールを採択し、16時30分に閉会しました。

# 知っていますか、豊川海軍工廠の悲劇

\*名大九条の会ニュース 第10号の記事を転載させていただきました。

名古屋大学太陽地球科学研究所（S T E研究所）の敷地内には、太平洋戦争で爆撃を受けた豊川海軍工廠の跡地があります。先月 27 日、この跡地の見学会が行われました。今回のニュースでは、豊川海軍工廠とその爆撃について皆さんにお知らせし、見学会の様子を報告します。

## ◎ 豊川海軍工廠とは？

豊川海軍工廠は太平洋戦争中、海軍直営の軍需工場として、海軍の使用する武器や弾薬などを製造していました。機銃生産に関しては、日本最大規模だったともいわれています。敷地面積は広大でしたが、現在ではその 4 分の 1 が S T E 研究所の敷地内にもみ残されています。敷地内には、弾薬資材置き場、火薬庫、弾薬筒の乾燥場など様々な施設がありました。工廠では、最盛期には 6 万人が働いていたといわれており、爆撃を受けた当時働いていた人々の多くは主に 14 歳から 16 歳の学生たちでした。

## ◎ 海軍工廠への爆撃

昭和 20 年 8 月 7 日午前 10 時 13 分、工廠はマリアナ基地から飛来した爆撃機 B 29、124 機により、約 26 分間の爆撃を受けました。30 分に満たない爆撃でしたが、使用された弾薬は約 3500 発、落とした弾薬の 85% が工廠内に命中したといわれています。この容赦ない機銃掃射で約 3000 人の人が犠牲となりました。犠牲者の多くは工廠で働いていた学生たちでした。

その性質からアメリカ軍による爆撃を受ける可能性のあった工廠ですが、防空壕は地面に穴を掘り上に板を渡したものなど、簡素なものでしかありませんでした。また、爆撃は正門を標的としてなされましたが、工廠内の地理に詳しくなかった学生たちは誤った指示を受けて適切に避難することができず、失われるはずのなかった多くの若者の命も奪われる結果となりました。

## ◎ 豊川海軍工廠跡地の今後

豊川市では、この跡地が新病院の建設候補地のひとつとして挙げられており、貴重な遺構が失われる危険にさらされました。しかし、現地の『保存をすすめる会』の方々を中心とした活動により、現時点ではこの跡地を残す方向で話が進められています。昨年の選挙により、新市長が誕生した市では、引き続き話し合いが進められていくそうです。この遺構について、名大 9 条の会でも『保存をすすめる会』の方と協力し、名大祭での展示や学習会など、保存をすすめる活動や紹介を行っていく予定です。

(文責：石橋歌織)

## 豊川海軍工廠跡地現地見学会の参加しました！

1月27日にSTE研究所にて行われた、豊川海軍工廠跡地現地見学会に参加しました。当日は寒空の中、約200名もの参加者が集まっており、盛大な会になりました。

豊川海軍工廠跡は、文化庁戦跡指定にも選ばれている、貴重な戦争資料のひとつです。しかし、60年の年月によって損傷が進んでおり、一刻も早い学術調査・保存が必要とされています。実際に建物などを見ても、傷みが激しいことはよくわかりました。機銃掃射の跡などがくっきりと残っていたはずの建物も、壁などが崩れ始めており、そこに豊川空襲の跡を見ることは、だんだんと難しくなっています。

敗戦の色が濃くなった45年8月7日に豊川空襲はありました。多くの女学生や若い国民学校の生徒たちが犠牲になる必要はあったのか、戦争というものがいかに人の心を残酷なものにしてしまうのか、疑問と恐怖を感じざるを得ません。

しかし、今の豊川海軍工廠跡からは、そこにあったはずの阿鼻叫喚の光景は想像しがたく、自分の想像力の乏しさを痛感しました。

過去の戦争を想像することともに、未来に向けた、例えば「九条が変わったらどうなるのか？」ということ想像するのは、自分を含め今の若者にとっては難しいのかもしれない。そのようななかで九条の存在を訴えるために、どのように活動を進めるのがいいのか、振り返らされるよいきっかけとなりました。  
(文責 鈴木結子)

## 平和と福祉講演会にぜひ参加を

主催：日本福祉大学九条の会

とき：4月26日(土)午後1:00～3:30

ところ：日本福祉大学 美浜キャンパス 120教室

**講演 命の重みー「平和」と「福祉」、  
9条と25条をつなげるもの！**

**講師 二宮厚美** (神戸大学発達科学部教授)

**アトラクション** 日本福祉大学大道芸サークル

附属高校和太鼓部「楽鼓」

群舞(高校生フェスティバル)